

ウォーカビリティの視点から見た下北沢地域の特徴
-The Local Liveability Indicator を用いた分析を通して-
Characteristics of Shimokitazawa from a Walkability Perspective
-Analysis using the Local Liveability Indicator-

○佐野充季¹, 前田洋伯¹, 染矢嵩文², 福井勇仁², 泉山墨威³

*Mitsuki Sano¹, Hironori Maeda¹, Takafumi Someya², Yuto Fukui², Rui Izumiyama³

Efforts in Japan to convert to people-centered spaces often remain limited to the utilization of public space, and there is a risk that they will not lead to sustainable liveliness in the city. This study analyzes Shimokitazawa, where people-centered spaces are spontaneously expanding, to identify elements of walkability. The results may include many intersections, detailed city blocks, diverse land uses, and many outdoor spaces for commerce.

1-1. 研究の背景及び目的

わが国では、近年「居心地がよく歩きたくなるまちなか」(以下、ウォーカブルシティ)の創出に向けて、公共空間活用や良質な空間整備等の施策が各地で行われている^[1]。しかし、国内におけるウォーカブルシティを形成する要素は明らかになっておらず、模索の状況である。

国内外からウォーカブルシティと評価されている都市として、東京都世田谷区下北沢地域が挙げられる^{[2][3]}。海外においては、高い人口密度、細かい街区の都市構造、アクセス性に優れた地域交通、多様で混在した土地利用、屋外空間の利活用等の要素(以下、ウォーカビリティ)が、ウォーカブルシティ形成において重要であると示されている^[4]。そのため、下北沢地域をウォーカビリティの視点から分析を行い、特徴を明らかにすることで、わが国におけるウォーカブルシティ形成の参考になると考える。

以上より本研究は、下北沢駅周辺を対象に、ウォーカビリティの視点から見た下北沢地域の特徴を明らかにする。

1-2. 研究の方法

本研究では、下北沢駅から約400mの徒歩5分圏⁽¹⁾を対象とし、ウォーカビリティの評価を行う。評価には、オーストラリア・メルボルン市のウォーカビリティを調査した「Places for People Liveability Study」^[4]にある「The Local Liveability Indicator」(以下、LLI)を用いる。本指標は、駅から徒歩5分圏内の人口密度、都市構造、土地利用、地域交通、屋外空間の5項目から、都市のウォーカビリティを評価するものである。具体的に、屋外空間はLLIの調査内容を参考に、現地調査を行い沿道から観測できる屋外空間を抽出した⁽²⁾。人口密度、都市構造、土地利用、地域交通の4項目は文献調査⁽³⁾より抽出する。

2章でLLIの各項目から下北沢地域のウォーカビリティの特徴の分析を行い、3章でまとめを行う。

2. LLIを用いた下北沢地域のウォーカビリティの特徴

2-1. 人口密度

下北沢地域の人口密度を見ると(Table 1)、居住人口が就業人口に対して、約1.9倍いることがわかる。また、居住人口密度は15.286人/km²である。

以上より、下北沢地域は居住者が多いまちで、人口密度も高い特徴があり、居住者同士の距離が近く、交流の機会が多いまちであると推察する。

2-2. 都市構造

下北沢地域の都市構造を見ると(Figure 1)、交差点数が135個、街区ブロック数が105個と街区ブロックが細かく形成されている。また、建築数は1090個と多い。

以上より、下北沢地域の都市構造は細かな街区ブロックにより形成されている特徴があり、建築が街区ブロック内部に多く密集していると推察する。

2-3. 地域交通

下北沢地域の地域交通を見ると(Figure 1)、バス停留所が4ヶ所、バス路線数は5本と少ない。また、バス停留所の位置に着目すると、全て比較的広幅員の茶沢通りに位置している。

以上より、下北沢地域の地域交通は、地域内の公共交通は少ないが、公共交通の通過する道路が限定されている特徴があり、これが徒歩5分圏内の他の狭幅員道路における歩行者と公共交通の交錯をなくし、安全な歩行環境を確保していると推察する。

2-4. 土地利用

下北沢地域の土地利用を見ると(Figure 2)、全12種の土地利用があり、専用商業施設と住商併用建物が駅周辺に多い。また、京王井の頭線を境として、北側と南側で比較すると、北側は商業施設と住商併用建物が大半を占めるのに対し、南側は専用商業施設や住商併用建物だけでなく、専用独立住宅や集合住宅も集積している。

以上より、下北沢地域の土地利用は多様な土地利用が集積している特徴があり、これが歩行者の歩行目的と歩行時の景観の多様さを創出していると推察する。

1:日大理工・学部・建築 2:日大理工・院(前)・建築 3:日大理工・教員・建築

2-5. 屋外空間

下北沢地域の屋外空間を見ると (Figure 3), 119 件 (全6種類) の屋外空間があり, 最多の空間は商業活用で90件 (75.6%) である. 屋外空間の位置に着目すると, 小田急線跡地に屋外空間が連続している. また, 下北沢南口商店街沿いにも屋外空間が連続的に位置している.

以上より, 下北沢地域の屋外空間は連続的に位置している特徴があり, これが人々を結びつける交流の空間として積極的に利用されていると推察する.

3. まとめ

本研究では, LLI を用いて下北沢地域のウォーカビリティを分析し, ウォーカビリティの視点から見た下北沢地域の特徴として以下のことが明らかとなった.

①人口密度が高く, 居住者同士の距離が近い. ②細かな街区ブロックを形成することにより, 建築数が多くなっている. ③地域内の公共交通は少ないが, 公共交通の通過する道路を限定することにより, 他の狭幅員道路における安全な歩行環境を確保している. ④多様な土地利用の集積により, 歩行者の歩行目的と移動時の景観の多様さを生んでいる. ⑤連続した屋外空間により, 人々が交流できる空間を生んでいる.

以上より, わが国のウォーカブルシティ形成に向けては, 安全な歩行経路の選択肢を増加させ, 多様な用途を集積させることが考えられる. また, 屋外空間を連続的に整備し, 人々が交流できる空間を設けることが重要であると考えられる.

参考文献

- [1]国土交通省都市局「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」<https://www.mlit.go.jp/camnon/001301651.pdf> (閲覧日2023年9月7日)
- [2]Kailla Imada「Time out TOKYO」<https://www.timeout.jp/tokyo/ja/ニュース/下北沢が「世界で最もクールな街」の2位に選出、1位はリスボンのアロイオス-091919> (閲覧日2023年9月7日)
- [3]高橋ユリカ,小林正美「シモキタらしさのDNA『暮らしたい訪れたい』まちの未来をひらく」,エクスマレッジ,2015年6月
- [4]City of Melbourne「Places for people 2015 - local Liveability Study」<https://www.melbourne.vic.gov.au/sitecollectiondocuments/places-for-people-2015-local-liveability-study-part1.pdf> (閲覧日2023年9月17日)
- [5]世田谷区「世田谷区の町丁目別人口と世帯数」<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokujiki/kusei/001/003/010/d00202971.html> (閲覧日2023年9月17日)
- [6]世田谷区「令和3年度世田谷区土地利用現況調査及びみどり資源」調査委託
- [7]ZENRIN DataCom「いつもナビ」<https://www.its-mo.com/> (閲覧日2023年9月17日).

注釈

- (1)15cities | 15分・15kmマップ, <https://www.5656map.jp/15cities.html#13.95/34.82727/134.689> より, 徒歩5分圏を算出.
- (2)2023年9月25日に調査.
- (3)人口密度は, 参考文献[5]の各町の人口密度及び対象地内の各町の面積より算出. 都市構造と土地利用は, 参考文献[6]より抽出. 地域交通は, 参考文献[7]より抽出.

Table 1. 下北沢地域のLLC指標の分析

	居住人口	就業人口	徒歩5分圏面積の居住人口	徒歩5分圏面積の就業人口			
人口密度	4308人	2305人	15,286人/km ²	8,179人/km ²			
徒歩5分圏面積	建築総面積	未建築面積割合	交差点数	ブロック数	平均ブロック長さ	建物数	
都市構造	281823m ²	126753m ²	55%	135個	105個	215.2m	1090個
地域交通	鉄道駅数	バス停数	バス路線数	居住者1人あたりの駐車場面積	就業者1人あたりの駐車場面積		
	1駅	4ヶ所	5本	2.0m ²	3.7m ²		
屋外空間の種類	屋外空間の総数						
屋外空間	6種						
土地利用の種類	1つの建築物ごとの居住者数		1つの建築物ごとの就業者数				
土地利用	12種		3.95人		2.11人		

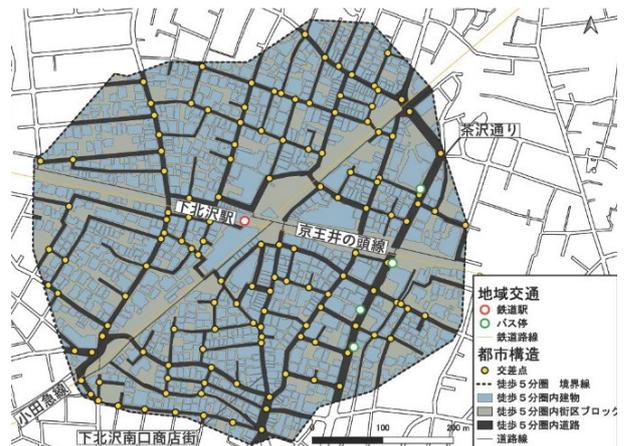


Figure 1. 下北沢地域の地域交通と都市構造

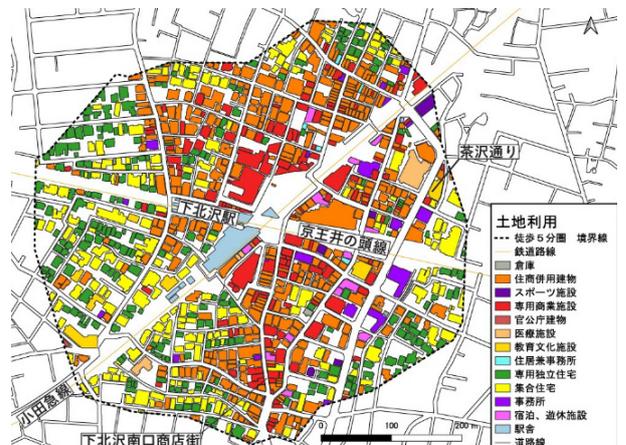


Figure 2. 下北沢地域の土地利用

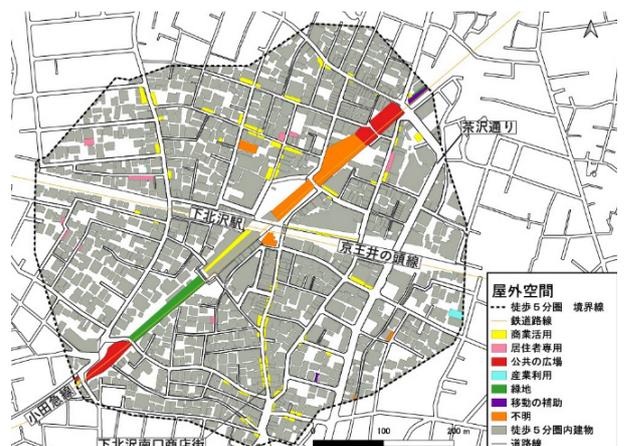


Figure 3. 下北沢地域の屋外空間